

平成 20 年度林業研究所の試験研究評価

林業研究所試験研究評価実施要領に基づき、平成 20 年度に実施した林業研究所試験研究評価委員会の内容は次のとおりでした。

委員

- ・三重大学名誉教授
- ・建築設計士事務所代表取締役
- ・林業経営者
- ・三重大学生物資源学部講師 の 4 名

1. 平成 20 年度第 1 回試験研究評価委員会

開催日：平成 20 年 10 月 8 日(水) 場所：林業研究所

内容：事前評価及び中間評価

1) 委員長選出

委員会運営内規に基づき、委員の互選により、委員長に三重大学名誉教授が選出されました。

2) 評価対象課題

事前評価及び中間評価課題とも、研究担当者がプレゼンテーションを行い、質疑応答のあと、評価方法内規に基づき 20 点満点で採点されました。平均点が 12 点を下回るものについては、林業研究所長が研究課題の不採択、中止及び計画の変更等を検討することになります。評価対象課題と評価結果及び出された意見は以下のとおりでした。

(事前)

ニホンジカの生息密度管理と森林被害防除に関する研究 評価平均点 16.75 点

出された意見：研究成果をシカ保護管理計画に反映することが求められる。被害情報の集め方に工夫が必要である。他府県での調査法、評価方法についても参考にする。

(中間)

① 長伐期化に対応した森林管理技術の開発 評価平均点 16.50 点

出された意見：三重県の独自性を出すこと。データベース作成を強化すると良い

② 長伐期化に対応した中大径材利用技術の開発 評価平均点 16.75 点

出された意見：多く使用されているベイマツとの比較もする。

③ 尾鷲ヒノキの材質特性の把握と新たな機能性部材の開発 評価平均点 12.75 点

出された意見：尾鷲ヒノキの特性を様々な角度から解明して欲しい。表面固さの必要性を再検討すべきではないか。

④ ハタケシメジの新品種確立と現場移転技術の開発 評価平均点 16.75 点

出された意見：ブランド化に期待する。栽培コストの低減策にも期待する。

⑤ 野外型簡易施設を利用した栽培技術の開発 評価平均点 16.25 点

出された意見：ブランド化に期待する

平成20年度第2回林業研究所試験研究評価委員会（事後）評価結果

開催日：平成21年3月6日（金） 場所：林業研究所

内容：事後評価

4人の研究評価委員が、20点満点で採点した評価結果と出された意見の概要は以下のとおりです。

【評価対象課題】

- ① ニホンジカによる森林被害の防除に関する研究 評価平均点：17.50点
出された意見
- ・ 獣害対策は森林の育成上重要であり、さらなる研究の発展を望む
 - ・ 間伐や枝打ちなどの施業と被害の関係、被害防除法について期待したい。
 - ・ 今回は生息密度と被害の関係に関連性がなかったが、次の段階で再検討した結果に期待したい
- ② 巻き枯らし間伐林における病虫害防除に関する研究 評価平均点：17.00点
出された意見
- ・ 林業害虫発生リスクは大きくないようだが、枯れ木が林内に多数あることによるリスクを考えると、施業としての推奨は慎重に行うべきである。
 - ・ 昆虫相を扱う研究としては、繰り返しが少ない。
 - ・ 調査本数が6本ずつであり、もう少し規模を拡大して行ったほうがよい。
- ③ 木材加工所から副生される樹皮の高度利用に関する研究 評価平均点：15.00点
出された意見
- ・ 今回の研究対象樹種はスギだけであったが、ヒノキでは異なった結果が得られたであろう。樹種特性があるので、研究を発展させて欲しい。
 - ・ 具体的な成果に乏しいが、ヒラタケ栽培への利用は有望である。